

平成28年度

今治市PTA連合会研修大会が開かれる

輝くひとみ

第22号

平成29年3月15日 発行
今治市PTA連合会
ホームページアドレス
<http://www.imabarcity-pta.jp>



一月二十二日(日)今治市PTA連合会研修会が、波方公民館で開催されました。開会行事では、初めに主催者を代表して今治市PTA連合会会長久米真佐美が開会の挨拶を行い、『やさしいきもち えがお つよいこころ』のテーマの基、単位PTA、市PTAの活動が有意義に行われていることに感謝を述べました。来賓の今治市教育委員会教育長 高橋実樹様からは、「夢をもち、その夢に向かって挑戦できる子どもたちが育つよう、PTA、委員会、学校が連携していくことが大切です」等々の温かいご祝辞をいただきました。

続いて、今年度PTAの健全な育成・発展に貢献された学校が表彰されました。最初に文部科学大臣表彰を受賞された南中学校PTA、愛媛県教育委員会教育長・愛媛県PTA連合会長の連名表彰を受賞された北郷中学校PTAのご紹介がありました。引き続き、愛媛県PTA功労者賞表彰が行われました。受賞者の皆様、おめでとうございます。

この後、藤岡宏先生のご講演が行われました。藤岡先生は、大学を卒業後、東京都などで児童精神医学を研修され、愛媛で大人の精神科医療に携わる傍ら、児童精神科医療に関与されました。各地の医療機関にお勤めの後、現在つばさ発達クリニック院長、よこはま発達クリニック顧問、川崎医療福祉大学非常勤講師を兼任されるなど、発達障がいや自閉症などの児童精神科医療に献身的に携わっております。

ご講演では、まず発達障がいとは特別な疾患ではなく周囲に気付かれにくいいため、保護者や教員が早期発見・早期対応に努めなければならぬと話されました。そして、大人が正しい知識をもち、どう応援したらよいか正しく理解することが大切であると強調されました。

さらに、一人ひとりの特性は異なっており、日々の生活の中で先の見通しが持ちにくい、不確かでありまいなことが理解しにくい、困っている自分が分かりにくい、誰にも相談できず失敗して叱られることが多く、自分に自信がもてないなど子どもによって様々な特徴があるそうです。そういった困難を抱えた子どもたちを正しく見取り、それだけに必要な対処をしなければならぬと教えていただきました。具体的な例として、例えば一日の過ごし方(プログラム)を細かく立てさせて、視覚的に理解させる。



最後に、「一人でできることを、一人でする練習」を、小さいころから積み重ねていく経験や、成長のためのよい支援が必要なのだということを教えてくださいました。その上で、「できないことを叱る」のではなく、「できたことを褒める」という自分に自信をもたせる育て方が何より大事であるとお話しくいただきました。

子育て全般に通じる貴重なご講演終了後には、参加者から活発な質問があるなど、有意義なご講演となりました。



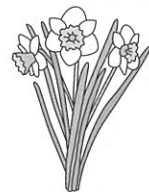
最後に、「今うまくいかなくても失敗の連続で不安でも、誰かが見てくれるからね。その経験は決して無駄やなかよ。人生に無駄なことは一つもなかけんね。いつの日か必ず、生まれてきてよかったと思える日が来るからね。」そう、歌に乗せて私たちに伝えてくださいました。森さんの熱い歌と、故郷の言葉でのメッセージに心が温かくなり、元気があふれました。

第二部では、アトラクションとして、森源太さんのトークアンドライブが行われました。森さんは、長崎県のお生まれで大学卒業後に歌手を夢見て上京。路上ライブを行うも芽が出ず、一念発起してママチャリで日本一周ライブの旅へ。一年七ヵ月かけて四十七都道府県を走破。シンガーソングライターとしての活動のなか、カンボジアに移住して孤児院などで歌いながら生活し、帰国後は、全国でライブ活動や学校での講演を行っていらいます。年間のライブ、学校講演は百五十本に上るそうです。そんな森さんのステージは、飾らない気さくな雰囲気が始まりました。ステージで森さんはいつも、「自分が子どもの頃、どんなことを伝えてほしかったか」「大人になるって素敵なことだよ」、そんなメッセージを

伝えたいと心掛けています。始めに、学校生活がうまくいかず、不登校になった経験、失敗や挫折の末、自分を好きになれなくなったことなどを語られました。そんな中で、初めて歌に自分の夢をえがいたこと、そしてその夢を追う自分の背中を押してくれた、お母様への感謝の気持ちについて話されました。その後、東京でうまくいかず、自分は何をしたらいいだろう、何がしたいだろうと自問自答したとき、日本一周の旅にたどり着いたということです。そして、それをやり遂げたときの喜びや達成感が、今の自分を支えているのだそうです。そしてその時、いつもはけんかばかりの母に対して「生んでくれてよかった。」「生まれてきてよかった。」「そう心の底から思えた」と話してくださいました。



日本PTA全国研究大会 兼四国ブロック大会 徳島うずしお大会



八月二十日(土)、八月二十一日(日)、第六十四回日本PTA全国研修大会徳島うずしお大会が開催されました。

大会スローガン「徳島発！渦巻く力を これからの社会に巣立つ子どもたちのために〜まげまけいっばいの愛を注ぎ込もう〜」を掲げ、全国から約五千人が一堂に集結しました。

初日は、徳島県内七カ所の分科会に分かれて実施され、各々の研究課題のもと基調講演やパネルディスカッションが行われました。私たちが参加した特別第二分科会では、地域防災について「地域防災を支えるひとつくり〜震災から学ぶ家庭・学校・地域のパートナーシップ〜」を研究課題とし、岩手県山田町教育委員会 教育次長兼学校教育課長 箱山智美氏を講師に迎え、東日本大震災の体験談、家族と別々に被災したこと、避難所での生活、その後の学校再開や心のケアを中心とした復興教育に取り組んだことなど語っていただきました。

人と人とのつながりが一番の防災である。子どもの笑顔が地域の立ち上がる力になる。など、被災者だからこそ語れるお話で、大変感動しました。

後半は、パネルディスカッションが行われ、防災についての意見を交換しました。これから起こるとされる南海トラフ巨大地震をはじめ、様々な災害に備えて「生き抜く」「思いやる」「助け合う」ことができる子どもたちを育てていかなければならないと、改めて学ぶことができました。

今治市は、幸い災害の少ない地域であり、私自身、防災について意識が低い中、これからの課題として、市P連でも防災に取り組んでいくべきだと強く思いました。パネラーの大木聖子 慶應義塾大学准教授は、各地域に講演やワークショップに行き、「私が行った地域は死者ゼロを目指しています。」と強い思いを持って、長いスパンでワークショップを行っているそうです。

どこかでご縁と機会を設けるとができれば、ぜひ大木准教授を招いてお話を聞かせていただきたいと思っています。

二日目の全体会は、アステイ徳島にて四国ブロック大会、開会式記念講演、大会宣言が盛大に行われました。

開会式前のアトラクション、老若男女の躍動感あふれる阿波おどりは、まさに圧巻の一言でした。

また、記念講演では漫画家の竹宮恵子氏を講師として迎え、子ども頃の経験を基に、親子の絆、地域とのつながりについて語っていただきました。

最後に大会宣言が決議され、家庭、学校、地域の連携、大人がともに学び、交流し合えるPTA活動の推進を宣言しました。

天候にも恵まれ、子育てに勉強になる二日間でした。



第62回愛媛県PTA大会

K相撲解説者「元小結・舞の海」舞の海秀平先生の貴重なお話を聞くことができました。

十一月十二日(土)、第六十二回愛媛県PTA大会が砥部町文化会館で行われました。

はじめに、国歌、PTAの歌を全員で斉唱を行い、和やかな微笑みの中、会が始まりました。

主催者挨拶として、愛媛県PTA連合会会長から、最近痛ましい子ども事件等が大きく報道されており、特にいじめ等がネットを通して行われ、自ら命を絶つという最悪の結果になってしまったというお話がありました。

昨年度、PTA連合会でもスマホ・携帯電話等の使用方法の提言を行いました。更なるいじめ撲滅のため、子どもたちに寄り添い守るために、学校、PTA、公民館、警察、地域等の密な情報交換が大切であり、子どもたちのよりよい成長環境と、相互の交流と理解を深める活動を、積極的に推進していきましようとお話されました。

つづいて、県内PTA活動関係の表彰が行われ、今治市では、PTA活動功労者知事表彰を(元)愛媛県、今治市PTA連合会副会長 菊川有里子さんが、また優良PTAとして北郷中学校が受賞となりました。

このあと基調講演として、「小よく大を制す」と題して、NH

日本大学相撲部で活躍。山形県の高校教師に内定していたが、後輩の死が転機となり、夢であった大相撲への道をかなえるために、周囲の反対を押し切り大相撲入りを決意。

一度目の新弟子検査に不合格頭にシリコンを入れ壮絶な一ヵ月を過ごし、二度目の検査に合格した話などをされました。そして小さな体だからできた事、小さな体だから苦勞し努力し諦めなかったお話を、ユーモアたっぷりに身振り、手振り付きでお話していただきました。

人生一度きりなので、自分の信念に基づいた行動を取り、色々な事に挑戦して行かなければならないとおっしゃっていました。

これからの人生を考えさせられる、大変有意義な講話となりました。



十一月二十七日(日)、今治市波方公民館にて今治市PTA連合会情報交換会が、開催されました。

まず、今治市総務部防災危機管理課 危機管理室長 二場健児先生に「地震などの災害への備え 災害から子どもを守るためのPTAとしての役割」と題して講演をしていただきました。

三十年以内に七十〜八十%の確率で起こると言われている南海トラフ地震。愛する人が死なないうようにするため!!自分たちで出来る防災について考えました。会場内でも、家の中の地震対策、家具の固定など、分かってはいるものの実践できていない人が多数でした。また、自助・共助・行政等からの公助のお話をしてくださいました。行政等からの公助は、一週間くらいできない。だから、必要なのは自助である。そのためには、日頃からの備えが必要である、とのことでした。最後に、実際の地震の映像を見て「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」「家具等の配置も必要だと、改めて思いました。

いま一度皆さんが防災について考え直す機会になったのではないかと思います。続いて、吹揚小学校、菊間小学校、大三島小学校による

学校の取組み事例紹介が行われました。

三校は、防災キャンプを行っており、どのような方法で、どこに協力してもらっているか、また、子どもたちが参加するために工夫していることなどの情報を提供していただきました。

吹揚小学校では、お仕事体験しながらの疑似紙幣「バリー」を使つての、防災体験!ひとつ体験することに「バリー」を渡して、最後に好きなおもちゃに交換するなど、子どもたちに楽しんで参加してもらおう工夫がされていました。

菊間小学校では、浸水歩行けむり体験ハウスで訓練をしたそうです。「いつかやる!!」では、実践できない。やろうと思つたときに、実行を!と熱い思いをぶつけてくれました。

大三島小学校では、大三島小学校おやじの会を主催に補助事業などは使わず、参加者に三百円を負担してもらつて実施しました。楽しみながら、真剣に取り組めた一日でした、と語ってくれました。

学校側とけんかをする必要はないが、こんなことをやりたい!とPTAが熱い思いをぶつけることは、大事!とも話していました。

時間の関係上、質疑応答ができなかったことが残念でしたが、とてもよい情報交換会になったと思います。

もう一度言います。三十年以内に七十〜八十%の確率で南海トラフ地震は起こります。愛する人が死なないうようにするために!!

今治市PTA連合会でも、防災をテーマに情報交換会をこれからも行っていきます。



三区研修大会

八月二十一日(日) 三区研修会が宮窪町の村上水軍博物館にて鳥嶼部PTA約三十名参加のもと開催されました。

博物館内には、小説でも有名となりました「村上海賊」にまつわる展示資料が数多く揃っていました。「海賊」と名がついているとはいえず、海の難所と言われる芸予諸島の水先案内の役割を担っていたことに関しても、館内講師より詳しく知ることができました。

村上海賊ゆかりの能島城跡にも、潮流体験として乗船する観測船で渡ることができました。そこからは辺りの激しい潮流も観察することができ、また瀬戸内の美しい景色も眺望できました。その地についても講師の丁寧な説明により、歴史上とても貴重な場所として実感できました。

各学校の遠足の場としてもよく利用されているようですが、意外と近隣の学校は訪れていないようにうかがっています。歴史的にも非常に勉強になると思いますので、ぜひイベントでも機会があれば訪れてみてはいかがでしょうか。



皆様のご協力のもと、無事に「輝くひとみ第22号」を発行できましたことを、この場をお借りしてお礼申し上げます。

あつという間の1年でした。今年は、私にとって多くの学び・共感・出会いのある年でした。全国大会で出会った大木聖子准教授、研修大会で出会ったシンガーソングライター森源太さん、そして、新居浜市の研修大会で出会った誕生学アドバイザー高見早智恵さん。特にこの3人の方には、大きな衝撃と感動・共感をいただきました。今治でも、この方たちと出会える場を何とか作っていきたくです。出会うこと、繋がること、これら全てのご縁を大切に生きていきたいですね。

最後になりましたが、心に響いた森源太さんの歌、「生命」の歌詞を皆様に贈って、編集後記とさせていただきます。

「生まれてきてくれて、生きてくれて、出会ってくれて、心から心からありがとう」

皆様、出会ってくださってありがとうございました。

編集後記

広報紙コンクール

受賞校の皆様おめでとうございます!

二月十一日(土)、今治市中央公民館において、第十二回広報紙コンクールを開催しました。小学校十九校、中学校一〇校の応募がありました。

各学校、特別審査員、市P連本部役員・広報公聴部員の採点を総合的に審査した結果、次のおり受賞校が決まりました。

各賞を受賞された学校の皆様、おめでとうございます。

なお、最優秀賞、優秀賞の六校の広報紙は、県PTAのコンクールに応募します。表彰は、本年五月の市PTA総会にて行います。

◆作品賞

☆最優秀賞

小学校の部

吹揚小学校

中学校の部

日吉中学校

※今治市PTA連合会のホームページにも掲載しておりますので、ご覧ください。
以下に、特別審査員の方々のご意見を掲載させていただきますので、今後の広報紙作りの参考にしてください。

http://www.imabaricity-pta.jp/

今治市PTA連合会

名刺:今治市PTA連合会

☆優秀賞

小学校の部

常盤小学校

中学校の部

立花中学校

◆特別審査員賞

桜井小学校

◆今治市PTA連合会長賞

日高小学校

大三島中学校

◆ミニコミ賞

小学校の部 富田小学校

中学校の部 桜井中学校

第12回 広報紙コンクール 特別審査員 講師

愛媛新聞社 今治支社

編集部長 岩本 仁

今治では初めての広報紙審査。小中とも力作が多い。カラー、モノクロ、ページ数に関係なく、子どもに好まれる飾りカットを多用するなどこだわりが随所に見られ驚いた。

まず中学。審査項目①の「読みやすさ」では、大島中に見出しが秀逸。写真の重ね置き、大きさのメリハリや吹き出しコメントなどのレイアウトもよかった。強い言葉はフロント面の写真は重ね置きでなく一枚ものでバーンといけばインパクトが増した。日吉中もフロント写真に迫力があり、特集面の見出しも優れていた。

審査項目②の「内容」では、これも大島中の水軍レース、サイクリングしまなみ、職場体験、島四国といったテーマに地域社会との強いつながりを感じた。

審査項目③の「企画」は日吉中の防災四ページ特集が光る。実用のチェックリストを付けたのもいい。立花中の言葉使いのアンケートも力作。

全体的に気になったのは、写真の大きさがそろわずすぎてすべてが埋没してしまっていること。「平等に、偏らないように」との配慮からだろうが、結局は読者の視点が散漫となり、どの記事にも目が止まりにくくなる。フロント面の上部をPTA会長や校長の挨拶で埋め、下部に写真を配置している学校が複数あるが、これも改善したい。下が重くバランスが悪いし、読者に手にしてもらつたためには、やはりフロントの上部に迫力ある一枚ものの写真を置きたい。

次に小学校。「読みやすさ」では、吹揚がフロント面に児童手書きの題字、迫力ある写真と大胆なカットを配っていてよかった。見出しも多く取っていた。桜井は見出しが少なく、フロント面の写真も校舎が中心で児童が小さいのが惜しいが、小学生が好みそうな絵カットを多用し「親子で読んでもらおう」との意欲が伝わった。せっかくなので似顔絵には作者を入れるとよかつた。常盤は見出しが多く、公衆電話のカットなどが凝っているほか、地元ゆかりの猿飛佐助のイメージを用いるなど労作だが、もともとも読まれるフロント面の余白を絵カットで埋めているのもつたない。

「内容」でも、街中にあるからではあるが吹揚小におんまぐ、マラソン大会でのバザー、EM、防災など地域との連携を示す記事が多かつた。桜井も最終ページに地域連携の記事を集めたコーナーを作り、分かりやすかつた。立花のゆるキャラPRも個性的。常盤の地域の人物インタビューもアイデアだ。鳥生のまちたんけんなどは児童のコメントのみで、どのような行事なのか分りにくいのが惜しい。

「企画」では命に直結する子ども安全の二ページ半特集や、桜井のスマホのアンケートが素晴らしい。立花の学校生活アンケート、常盤の年間企画先生インタビュー、九和の一年生の似顔絵なども光っていた。

課題は、中学と同じく写真のメリハリと挨拶文の扱い。特集などおすすめの自信作はできるだけ前に持っていくことも心がけたらいい。あと、運動会などの人物の集合写真を多用する学校が多く、一人一人の顔が小さくて判別できない。作成に関するアンケートを読む

むと公平性のためだけでなく「個人情報保護のため顔が判別できるのはNG」との記述もあり、この理由もあるのかと驚いた。弊社の取材でも児童を撮影する場合は学校に確認するなど諸事情に配慮しており、理解できる。しかし、見応えのある広報紙づくりに向けては、やはり、使用に問題がないか確認した上で写真のメリハリをきかせ、大きな写真で児童の生き生きとした表情を読者に見てもらいたい。

新聞と同じく広報紙づくりの原点は、まずフロント面を目立たせて数ある刊行物の中から手に取ってもらつたこと。そして、各ページに目立つメニューを必ず一つは配置し、素通りせずに目を止めてもらい、ついでにできるだけ多くの記事を読んでもらうこと。多忙で時間のない読者にすべての記事を読んでもらうのは現実問題として難しいが、時間がない人に対して最低限の要点を見出しに取って最低限の内容を伝える。同時に、おすすめの記事はどんな前に出して読んでもらうチャンスを広げる。「すべては無理でもこれだけは」との意識で作れば、おのずとメリハリ、優先順序が生まれ、よりよい広報紙ができるはずだ。

今治市教育推進協議会

副会長 伊藤 雅章

広報紙ですが、私がPTA連合会に所属しているときも審査をしていました。当時二十年ほど前ですが、部数も多くありましたが、現在の広報紙も同じような傾向の感じを受けまし

た。

一つはPTA新聞という格好ですが、学校だよりといった風なイメージの強い新聞も結構ありますが、PTAとして出すという点が非常に大事であると思います。学校と保護者と地域といつも三位一体の活動がよくいわれています。そして、その中心に子どもがいて、子どもの育成ということを皆が協力して考えようということが大事であると思います。

PTAの広報というのは内容的にも、PTA会員とともに作っていくスタイルを追求していただきたいと思っています。どうしてもPTA新聞というのには前任者が作ったスタイルを踏襲していきなかなかわええらねない面があると思います。学校が変わり、全国でさまざまな問題が発生している中で、PTA新聞に保護者の思う問題が載つてなかつたことが残念です。防災のこと等ありました。が、やはり保護者が関心を持つべき、PTAが関心を持つべきテーマを捉えて、これからは広報にとどまらずPTA全体の活動をしたいとすることが大事だと思っています。

最近では各学校においてHPが充実し、子どもの活動がリアルタイムに写真で出ています。それにこの広報の進行が追いついていないので、学校の出しているHPにもある程度関わりをもちながら、今の広報紙においてもPTAとして活用すべきではないか、そしてもっと豊かで合理的な活動を展開していただきたいと思っています。今PTAの存在意義が問われているくらいのところですので、

今治市教育委員会

学校教育課 秋山 徹也

昨年度に引き続き、本コンクールの審査をさせていただきました。各校の実際の様子を想像しながら、楽しく、また、広報紙の趣旨や審査基準に則つて、厳正に審査しました。

今年度も、大変質の高い広報紙ばかりで甲乙付けがたく、大いに頭を悩ませました。と同時に、予算や人員等の制約がある中でも真摯に作成に取り組み、また、各校のいろいろな活動の様子や児童・生徒を思う皆様方の温かい姿を見て取ることができ、大変ありがたかったです。頭の下がる思いもしました。

内容としては、これまでどおり行われてきた学校行事、地域の行事をはじめとした伝統的な行事、また、防災教育やスマホ利用等の今日的な課題への取組など各校において特色のある充実した活動を中心にまとめられていました。そのまとも方も、見やすくユニークで、企画やレイアウト等のアイデアの豊かさにも圧倒されました。

今後とも、今治市の子どもたちのためのより充実したPTA活動にご協力いただきますようお願い申し上げます。

終わりにになりましたが、広報紙の作成に携わってくださった方々、誠にありがとうございます。